

平成25年度 北海道男女平等参画チャレンジ賞 受賞者一覧

【輝く女性のチャレンジ賞】

氏名	ひろせ くみ 廣瀬 久美	現職等	株式会社 富良野タクシー 介護・福祉ショップ ポピー	住所	富良野市
<p>《受賞理由》</p> <p>仙台市内で稼働していましたが、結婚を機に退職して富良野市に転入し、専業主婦として夫の両親と同居していましたが、義父が脳梗塞になり、後遺症のリハビリのサポートを行う中で、福祉の必要性を強く感じるようになりました。以前から働きたいという希望があったことや、夫の勧めもあり、起業を決意。夫の経営するタクシー会社の福祉部門として、福祉用具販売を行うこととしました。</p> <p>しかし、福祉用具販売には資格が必要であり、資格取得のためには、富良野市から約120km離れた札幌市で、1週間の講習を受けなければなりません。その時、生後9ヶ月の長女の子育て中でしたが、家族の全面的な協力を得て資格を取得しました。そして、自宅の車庫を改修し、平成8年5月に「介護・福祉ショップ ポピー」を開店しました。</p> <p>開店当初は、パートの女性1名との2人体制で、子育てと義父の介護も行いながら奮闘しました。開店2年目の春に店舗を移転し、立地条件の悪さを克服したところ、来店者が増えるようになりました。平成12年の介護保険制度開始後には、事業の幅を広げ、現在では、訪問介護や居宅介護支援も行う総合的な介護関連事業所となり、着実に事業を発展させています。</p> <p>子育て、介護と仕事を両立している自らの経験を元に、女性職員の家庭の状況に配慮しながら、無理なく働ける職場環境づくりを行っています。12名の職員のうち、介護ヘルパーについては、5名全員が子育て中の女性です。</p> <p>本体のタクシー会社においては、ドライバーに介護ヘルパーの資格を取得してもらい、福祉タクシーを開始しました。また、女性ドライバーを積極的に雇用しています。</p> <p>いったん仕事を中断した後に、仕事に再チャレンジし成果をあげている身近なモデルであり、地域の女性の就業の推進、地域福祉の発展が期待されます。</p>					

【輝く北のチャレンジ支援賞】

団体名	旭川医科大学 二輪草センター	代表者	センター長 山本 明美	住所	旭川市
<p>《受賞理由》</p> <p>二輪草センターは、平成19年度に文部科学省の事業を実施するために設立されましたが、平成22年度から、大学の組織として復職支援事業を行っています。</p> <p>センターの目的は、出産、育児および介護のための休業予定の医師・看護師等に対し、復職に必要な情報提供や自学支援を実施し、円滑に復帰できるようサポートすることです。同時に、女性医療人だけでなく、男性や様々な立場の方にも働きやすい職場環境を整えることを目指しています。</p> <p>事業は、4つの部門で取り組んでいます。</p> <p>「復職支援研修部門」は、就業情報・復職教育プログラムの提供、講演会等の情報提供を行うほか、地域医療に貢献するため、当院以外の潜在看護師（復職を希望し地域に潜在している看護師）に対しても、復職支援研修を行っています。</p> <p>「キャリア支援部門」は、復職・子育て・介護支援コーディネーターやキャリア支援相談員が、キャリア相談を行っています。また、授業などを通して学生のキャリアプランの構築を目指しています。</p> <p>「子育て・介護支援部門」は、バックアップナースシステム、病児一時預かり室のほか、旭川市及び専門機関の情報提供や、学童期の育児支援としてキッズスクールを開催しています。</p> <p>「病後児保育部門」は、病後児保育室で、病気回復期のお子さんを預かっています。</p> <p>このように、旭川医科大学が一丸となって復職・子育て・介護のサポート体制を整えていることが、病院の魅力の一つとなり、医師・看護師不足の解消につながっていくことと思います。二輪草センターは、大学全体をファミリーと考え、全ての職員が働きやすい環境であることを願い、活動しています。</p> <p>医療人の復職支援を通じて、今後も地域の医療を支えるとともに、当院と同様の仕組みが社会に広がっていくことが期待されます。</p>					